AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2019.7) 平成30年度:1.

重症下肢虚血に対して血行再建術後にNPWTを施行し多職種の協働により治癒に至った事例

餌取 将臣, 岩間 千草, 細砂 智美, 中村 智美, 日野岡 蘭子

重症下肢虚血に対して血行再建術後にNPWTを施行し多職種の協働により治癒に至った事例

旭川医科大学病院　９階東ナースステーション
○餌取将臣　岩間千草　細砂智美　中村智美
日野岡　蘭子[1)]
１）旭川医科大学病院　看護部

【目的】血行再建後に局所陰圧閉鎖療法（以下NPWT）を使用し治癒に至るまでの経過と実践した看護を報告する。

【倫理的配慮】個人が特定されないよう配慮した。

【症例】８０代女性、Ⅱ型糖尿病。左踵部に水疱形成し、感染性壊疽に増悪した。入院前のADLは自宅で娘の援助を受け車椅子。治療中のリハビリでは入院前のADLに戻ることを目標とし、血行再建後にNPWTを開始、植皮を経過し踵骨部分切除・縫合後に再度NPWT管理を行い治癒した。

【結果】治療経過とNPWT中の看護を以下の３期に分けて示す。
（１）血行再建から肉芽増殖の時期：血行再建後に血流は改善し、肉芽増殖を目的にNPWTを開始した。看護として、患肢免荷であったが看護師２名介助の下で車椅子移乗やリハビリを積極的に行い筋力低下予防に努めた。
（２）植皮の生着を目指す時期：右踵部の植皮を行い軟膏処置へ移行した。しかし、床上での踵部のずれが原因で一部生着不良を来し、生着促進とずれ予防としてNPWTを再開した。看護としては、床上でのリハビリや移動方法を理学療法士（以下PT）とカンファレンスを行い、指導・訓練した。生着を認め安静度拡大後はリハビリを再検討し、車椅子の自走訓練や立位訓練を実施した。その後、踵骨露出部の肉芽増殖を目的に持続洗浄機能付きのVAC　Ultaを装着した。リハビリ開始後に、VACのチューブが車椅子に巻き込まれたことによる断裂が発生したため、環境整備やチューブ類の整理を強化した。
（３）踵骨部分切除を行い治癒に至る時期：肉芽増殖は良好であったが骨髄炎を認め、踵骨部分切除と創縫合を実施し、PICOを装着し縫合不全予防を行った。治療開始から１７４日で治癒と判断された。床上での体動でも踵部に荷重がかかっていたため、臥床中に使用する装具を作成した。看護として、適切な踵部保護のために看護師が装着介助を行った。臥床時間が長く上下肢ともに筋力低下を認め、リハビリでは起立、足上げ、車椅子自走訓練をPTと共に継続した。

【考察】
（１）重症下肢虚血の治療は血行再建後の状態により治療方針の変化が大きいため、医師、看護師、特定看護師の情報の共有が重要である。
（２）退院後の生活を見据え、目標としたADLに達するために、PTらと協働し早期からのリハビリの開始・継続が必要である。
（３）長期の安静臥床を必要とする場合、様々なラインの整理や配慮について患者及び家族に十分に指導を行うことと、看護師による危険予防行動が重要である。